

コロナの波がおさまり顔の見える関係作りを意識した活動の機会が増えてきておりますが、日々ご苦勞の多いことと思います。東灘区の皆様に少しでも役に立つ情報や医療・介護連携に役立つ情報を発信していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

東灘区医療介護サポートセンターメンバー紹介

医師会
中村好廣先生医師会
杉原隼三先生センター長
青山正人先生副センター長
児島隆介先生副センター長
西尾健志先生東灘区医師会長
是則清一先生コーディネーター
中島千尋コーディネーター
青山弘美

新任挨拶

10月より東灘区医療介護サポートセンターに着任しました中島千尋です。
4年間の病院経験を経て、こちらで働かせていただくことになりました。
そのため経験・知識ともに不足していますが、1から勉強し日々頑張っていく所存です。
多職種間で良い関係を築いていけるよう顔の見える関係作りを意識していきたいと思っています。
ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

各団体から

“つながりを持つことは自分にとって大事な事と思って頂けるように” 地域支え合い推進員の仕事を通して

御影南部あんしんすこやかセンター
地域支え合い推進員 笹倉裕美子様

東灘区には11ヶ所のあんしんすこやかセンターが在ります、センターには4職種（主任ケアマネジャー・看護師/保健師等・社会福祉士等・地域支え合い推進員）が専門性を生かして、「住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように」高齢者の相談を聞かせて頂いています。

地域支え合い推進員の仕事はセンターの役割を知って頂くために、地域に出向き地域の方との関係を築くことを求められています。広報活動を行い、民生委員さんが訪問された高齢者世帯の相談を引継ぎ、必要であれば介護の相談を受けていきます。センターが設置されて20年近くにもなると相談件数も相当な数になり「親の時に世話になりました、今度は私の相談をしたい」等の連絡を受けるぐらいになりましたが、未だ何年もひとりで介護を抱え込み、何処に相談をかければよいか分からなかったと、相談の時に話される方もいます。

このような方を一人でも少なくするために、介護を予防する時期よりセンターは関わらせて頂きたいと考えます。その方法として、地域の自治会館をお借りして介護予防等の取り組みを行っています。初めて参加される方は、参加する事に勇気が必要かも知れないのですが、ここでもチカラを発揮して頂いているのが地域の声かけです。顔見知りで無いセンター職員の誘いより、「面白い行事があるみたいよ」と顔見知りの誰かが誘うと、参加が容易く出来て、久しぶりの知り合いに出会えます。

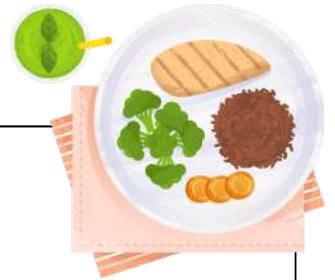
地域に知り合いが少ない方も、各あんしんすこやかセンターではこのつながりのキッカケをつくるために「つどい場」の企画を地域の方と一緒に色々考え、あんしんすこやかセンターも地域とつながらせて頂く事が大事と仕事をさせて頂いています。

最後に、長く仕事をしていると「4月は関係機関の人事異動、仕事のつながりに影響する？」と直ぐに考えてしまいます。何処迄引き継がれているか？これが一番気になるところです。

前任者と同じようなタイミングや間合いに早くなれるように、後任の方が引き継がれた時の疑問点等聞いてくださることでスムーズな引継ぎが出来ていくと感じます。

私も心がけて行くべきところと考えています、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

研修報告



①第1回東灘区在宅NST推進研究会研修会 「報酬改定から見える食に関する多職種連携」

<日時>令和6年9月14日(土)

<参加者> 33名

<内容>

「口腔連携強化加算について」

講師：東灘区歯科医師会 理事 吉川歯科医院 吉川 博康 先生

「2024年度調剤報酬改定から考える、多職種連携について」

講師：東灘区薬剤師会 専務理事 しかのこ薬局 坂井 大悟 氏

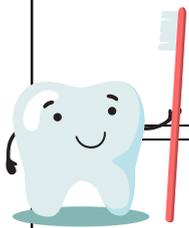
「訪問栄養指導に関するエトセトラ～令和6年医療介護診療報酬改定をふまえて～」

講師：医療法人明倫会 宮地病院 栄養科主任 管理栄養士 田村 里織 氏

「報酬改定から見える食に関する多職種連携」

講師：神戸市東灘区医師会 理事 西尾耳鼻咽喉科 西尾 健志 先生

以上4名を講師に招き、研修目標達成のためにお話しを聞かせていただきました。今回の報酬改定を中心に多職種の視点で解説された講義は、それぞれの職種の立場から報酬改定を通して連携の重要性を示されおり、みんなで認識できた会になりました。



②第2回東灘区在宅NST推進研究会研修会 「多職種ディスカッションを学ぼう！」

<日時>令和6年度10月26日(土)

<参加者> 43名

<内容>

神戸市東灘区医師会 西尾 健志先生に3事例（①口内痛・食欲低下、②嚥下困難・体重減少、③嚥下時痛）を紹介していただき各グループごとに事例検討を行いました。個人ワーク後にグループワークで意見交換を行い、その後1グループずつ前に出て公開ディスカッションを行いました。多職種での話し合いということもあり様々な視点で活発に意見交流ができました。質問も積極的にされており各職種が行っているアセスメントや介入の方法などを知ることができとても有意義な時間となりました。



【NST推進研究会とは】

神戸市東灘区における「食」を中心とした栄養療法、口腔ケア、摂食嚥下リハビリテーションなど、医療介護に関する諸課題の解決に向けて調査研究や教育啓発活動を推進し、住み慣れた地域で最期まで自分らしく生活できる質の高い地域包括ケアシステムの構築を目指すとともに、在宅医療介護専門職の連携を図ること目的に活動しています。

愛称「うめえプロジェクト」



研修会報告



介護支援専門員等の資質向上のための研修会 医療介護連携を学ぶ研修会

③ 「難病支援の理解を深める」 難病について学び専門職が支援できること

<日時>令和6年8月2日（金）

<参加者>62名

<内容>

講師 神戸市難病相談支援センター 慢性呼吸器疾患看護認定看護師・難病看護師 別府 聖子氏、社会福祉士 西田 麻子氏をお呼びし、難病について及び制度の活用、難病相談支援センターの活用方法について講義していただきました。また、難病の事例を用いてグループワークを行い、全体で発表しました。東灘区で難病支援をされている方が多くおり、その対応にお困りのことも多々あるため、難病支援をより深められるよう事例検討会など、今後も継続して学べて多職種連携ができる場を作りたいです。



④ 【芦屋市・神戸市東灘区 病院地域連携室交流会】

<日時>令和6年8月29日（木）

<参加者>15名

<参加病院>甲南医療センター、六甲アイランド甲南病院、東神戸病院、宮地病院
本山リハビリテーション病院、市立芦屋病院、南芦屋浜病院

<内容>

東灘区から5病院、芦屋市から2病院が集まり各病院の紹介、強みにしている点や情報提供を行いました。

その後、各病院の困りごとや対応の仕方などを共有し意見交換を行いました。

コロナの影響で今回6年振りの開催となりましたが、顔の見える関係づくりの大切さを改めて実感できました。今後も協力し合える関係を継続していくために研修会を継続していけるようにしたいと思っています。



今後の研修について



令和6年度東灘区訪問看護ステーション連絡協議会研修会
活用できていますか？BCP
開催のお知らせ

4月からBCP策定が義務化され、各事業所で作成されたかと思えます。
今回の研修では、作成後のBCPの活用方法やトリアージの更新の知識を得ることで、1人1人の意識が高まり、各事業所に保つてからも上手くBCPを活用していける場となればと考えています。

参加費 無料
12月14日(土)
14:00 ~ 16:00
会場 東灘区医師会館3階ホール
(神戸市東灘区御影中町4-1-8)

対象者 訪問看護、訪問介護、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護などの在宅系事業所(定員50名の先着順)

講師: 葵訪問看護ステーション 山本 克美 様
看護学修士 / 在宅看護専門看護師
訪問看護認定看護師

お申込み・お問合せ
東灘区医療介護サポートセンター
(078)-822-0171
WEBでのお申し込みはこちら

研修: 東灘区訪問看護ステーション連絡協議会
東灘区医療介護サポートセンター <https://forms.gle/Zou8Uw8InFDM5oc>

①東灘区訪問看護ステーション連絡協議会研修会

「活用できていますか？BCP」

日時：12月14日(土) 14時～16時

場所：東灘区医師会館3Fホール

講師：葵訪問看護ステーション

山本 克美 様

②第3回NST推進研究会研修会

(食支援サマリについて開催予定)

日時：2月某日

場所：東灘区医師会館3Fホール

(詳細が決まり次第お知らせします。)



相談について



- ・ 往診医の紹介
 - ・ 介護事業所や訪問看護事業所などの紹介
 - ・ 退院後の入所先や在宅療養についての相談
 - ・ 制度(特に医療・介護・障害の制度が関連しているケースなど)について
- こんなことで困っている、解決したけど今後も起こりそうな困りごとなど
ご相談ください。

必要であれば、関係先に繋ぐこともできます。

また、行政に現状をお伝えすることもできます。

誰かに伝えることで、気持ちが軽くなることもあります。

遠慮せずにお電話、FAXください。

すべてにお答えできるわけではありませんが、出来るだけ一緒に考えさせていただきます。



厚生労働省では、人生の最終段階に向けた医療・ケアについて、患者・家族と医療従事者等があらかじめ繰り返し話し合う自発的なプロセスである「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」を重視し、愛称を「人生会議」と定め、神戸市でも「私のこれから」のパンフレットを作成し、普及・啓発を実施しています。

このパンフレットでは、話し合いの手順や、自身が大切にしていることを考えるシートを掲載しています。まずはこのパンフレットを使って大切な人と「これから」のこと、話してみませんか。



誤嚥性肺炎は突然に、

誤嚥性肺炎を予防するには？

●寝る前に歯みがきをしましょう
●かかりつけ歯科医で定期的な口の掃除を受けましょう！
●オーラルフレイルを予防するために口の体操をしましょう

誤嚥性肺炎とは？
唾液や食物などが誤って気管に入ったときに起こる肺炎のことです。原因の多くは口の中の細菌です。災害関連死の上位です。

寝ている間に唾液が気管に入り、気が付かないうちに誤嚥性肺炎になるリスクもあります

歯みがきしないと、細菌が増えて、誤嚥性肺炎のリスクにつながります。

オーラルフレイルとは口の機能が低下した状態のことです。オーラルフレイルが進行すると誤嚥性肺炎になる可能性があります。

口が乾く、むせることが増えた、硬いものが食べにくい、清香が薄くなった、食べに苦しむようになった

誤嚥性肺炎予防ポスター (神戸市健康局作成)

阪神淡路大震災では、災害関連死の中の最大の死因は肺炎が24%を占めており、その多くは誤嚥性肺炎といわれています。また、全国の死因で誤嚥性肺炎は第6位ですが、神戸市では第5位となっています。

(2022年度人口動態統計より)

誤嚥性肺炎は、災害時といった口腔ケアが十分にできない環境で増加したというデータもあります。口腔ケアの大切さを伝え、毎日の習慣として正しい口腔ケアを実践でき、「誤嚥」を「肺炎」に悪化させないことが大切です。



東灘区医療介護サポートセンター

[開所時間] 月～金 9:00 - 17:00 (土日祝休)

822-0171

東灘区医師会館3階
(神戸市東灘区御影中町4丁目1-8)

次回の東灘区サポセン通信は4月頃の発刊予定です。明るいニュースを伝えられるように頑張ります！！